

地域とともに進める公共事業 ～ 山陰近畿自動車道 浜坂道路の広報について～

藤井 忍

兵庫県 県土整備部 県土企画局 空港政策課 (〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1)

地域高規格道路である山陰近畿自動車道 浜坂道路(全長約10km)は、現在、工事が本格化しつつあり、至る箇所で工事を実施している。そのため、交通規制や工事用車両の増加など地域へ負担をかけている。その一方で、トンネルや長大橋などの特殊工事や大型工事など、地域の人々の興味の対象の一つとなっている。

そこで、「地域の皆様とともに工事を進める」、「浜坂道路の“ファン”を増やす」をキーワードに、極力、工事現場見学の機会をつくり、また、出前講座やホームページ、あるいはFacebookなど新たな媒体を用いた浜坂道路担当課の広報に対する取り組みについて報告する。

キーワード 広報、現場見学会、出前講座、記者発表、Facebook

1. はじめに

公共工事の実施にあたっては、日々地域の皆様、関係機関の多種多様なご意見の調整に奔走し、なかなか広報については手が回らないことと思います。

地域高規格道路「浜坂道路」は、早期開通への期待に込めるため、総額約300億円の巨費を投じ短期的な集中投資により、工事を進めており、現在、交通規制や工事用車両の増加など地域に対してご負担をお願いしている状況にあります。

その一方で、地域の皆様の潜在的な意識として、トンネルや長大橋などの特殊工事、大規模工事などの工事自

体に対する好奇心というのを感じています。

そのような中、「地域の皆様とともに工事を進める」、「浜坂道路の“ファン”を増やす」をキーワードに、事業及び工事についてご理解を深めて頂くために、浜坂道路担当者全体で取り組んでいる広報活動について報告させていただきます。

2. 浜坂道路の概要

(1) 計画概要

事業名：一般国道178号 浜坂道路(山陰近畿自動車道)

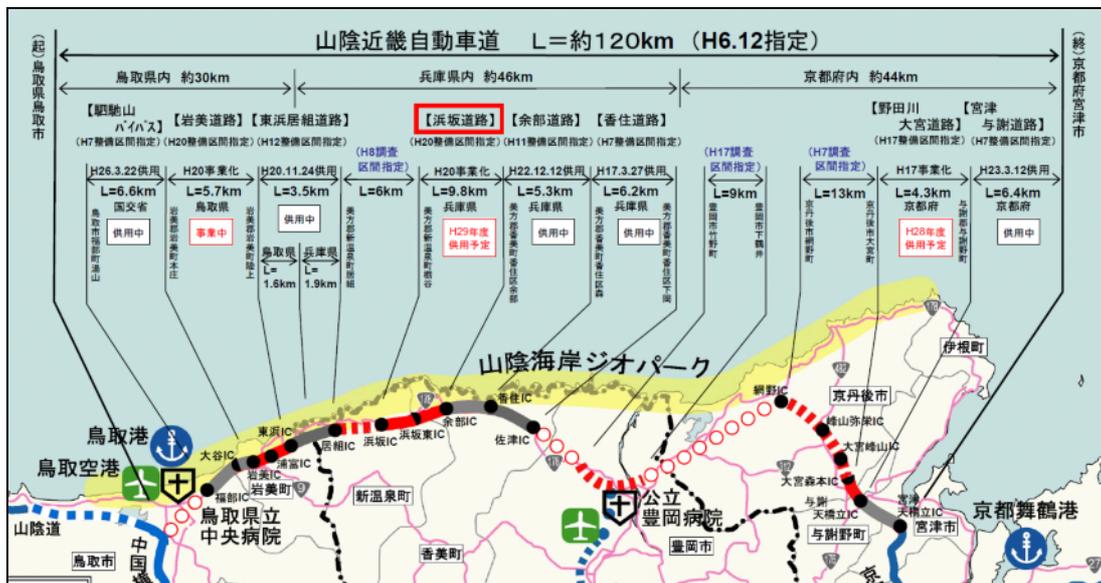


図-1 浜坂道路位置図

延長：約9.8km
 道路区分：第1種第3級（自動車専用道路）
 車線数：2車線
 設計速度：80km/h
 総事業費：約300億円

(2) 主な事業効果

時間の短縮・・・浜坂道路区間で約7分の短縮
 防災力強化・・・現道は、斜面崩壊が発生し度々通行止、災害に強い道路（大災害発生時における緊急輸送道路）
 救急医療・・・但馬地域で唯一の第3次救急医療施設である豊岡病院へのアクセス向上
 観光促進・・・ジオパークや温泉など豊かな資源を生かした観光促進
 産業活性化・・・地域特産品の流通が強化され産業が活性化
 交流連携・・・周辺地域との連携強化

3. 浜坂道路の広報が必要な4つの理由

工事に直接携わる土木事務所にいると、どうしても工事発注、監督、地元対応に時間をとられ、広報にまで手が回らないのが実情だと思います。そのような中、浜坂道路では以下の理由により、広報に力を入れる必要性があると考えています。

- 【理由】 県下の道路事業の中で突出した予算を配分していただいております、予算の大きさに比例して説明責任を果たしていく義務がある。
- 【理由】 地域の皆様の、工事現場を「見たい」、「どうなっているんだろう」に対する潜在的なニーズに応えたい。
- 【理由】 浜坂道路を知ってもらうことを通じ、公共事業の意義・必要性をできるだけ多くの人に正しく理解してもらいたい。
- 【理由】 地元の総意を盛り上げていくことで、事業の円滑化、促進につなげたい。

4. 浜坂道路での広報の取り組み

(1) 広報の取り組み方針

これまでのインフラ整備に関する広報は、工事着手時や脚光を浴びる工事完成時に重点的に実施し、工事途中は官学を対象とした見学会が大部分を占めています。

そこで、浜坂道路においては、「地域の皆様とともに工事を進める」、「浜坂道路の“ファン”を増やす」をキーワードに、以下の方針により様々な広報活動を行っています。

施工中の工事状況を知ってもらう
 官学だけでなく、積極的に地元の皆様や教育機関も対象とする
 地元地域のみならず、但馬全域、県下、そして全国へ情報を発信

(2) **見たいに応える** ～地元の皆様等を招き、積極的に工事現場見学会を展開～

a) 工事見学会の実績
 大型工事に着工した平成24年度以降、地元住民や小学校などを対象に表-2のとおり、工事現場見学会を実施しています（平成25年11月末現在）。その多くは県からのアプローチによるものです。

見学会当日、悪天候であっても、事前申込をされた方のほとんどが出席されていました。「見たい」という意識の高さが伺えます。

b) 現場見学会の工夫（記憶に残る見学会に！）
 工事現場を単に「見る」だけではなく、以下に示すように“お金と手間をかけず”，見学に訪れた住民が深く印象に残るようなイベントを組み入れ，“記憶に残る見学会”となるよう工夫を行っています。特に小学生に対しては，“自分で手を動かし体験してもらう”ことを必ず組み入れています。

- ・【記念撮影】
記念写真撮影用ボードの作成
- ・【見学記念品】
見学の記念となる“現地”土産（トンネル掘削石）
- ・【トンネルシアター】（写真-3）
覆工コンクリートをスクリーンにみため、工事概要を上映
- ・【記念行事】
トンネル防水シートに絵やメッセージを描画
- ・【貴重な瞬間】
トンネル貫通などなかなか見ることができない瞬間に地元住民を招待

表-2 見学会実績

対象	開催回数	参加延べ人数
地元住民	5	186
小学校	4	253
報道機関	1	2
その他	20	372
合計	30	813

その他は、官公庁、各種団体など

c) 土木事務所玄関ホールでの活用

住民の皆様や施工業者の方々が事務所に訪れた際にも、いま現場状況がどうなっているか見ていただくよう、トンネル工事や橋梁工事の進捗状況図(図-4)、新聞記事、広報誌「浜坂道路NEWS」など様々なパネルを掲示しています。また、工事特用品(貫通石)を展示しています(写真-5)。

進捗状況図では、浜坂道路の中で、1番目と2番目に長いトンネルを2つの施工業者が工区境にむかって掘削する“迎え掘り”の施行状況を写真とともに毎週1回の頻度で更新しています。事務所に訪れる皆様に情報発信する目的で掲示しましたが、施工業者にとっても、良い意味でのプレッシャーとなり、工事に対する励みとなっているようです。

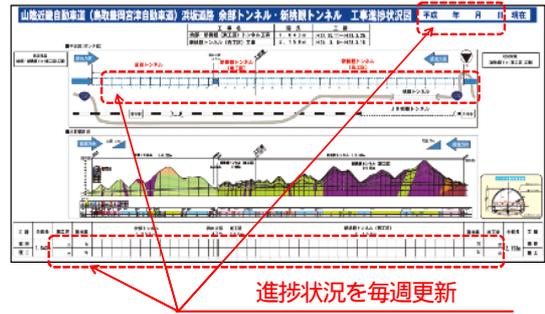


図-4 進捗状況パネル(新桃観トンネル・余部トンネル)

(3) **正しく深く理解してもらおう**

～小学校への出前講座～

教育委員会や校区内で施工中の工事が多い浜坂東小学校に声をかけ、出前講座を実施しました(表-6、写真-7)。一般的な出前講座は、事業概要説明で終わるところですが、今回は、それだけに留まらず、子供たち自らが考える「将来のまちへの希望」に関する討議にまで発展させました。

【対象】5, 6年生(計23名)

現場見学会のみ全校児童が対象

- 【狙い】・浜坂道路を身近に知ることを通じ、自分たちの暮らす地域への理解を深める
・将来のわがまちについて考える学習の機会を提供し郷土愛を育む

a) 第1回 新温泉土木職員が小学校へ出向き、浜坂道路の概要を説明

《出前講座(第1回)を受けた児童の声》

- ・「浜坂道路を造るのに約300億円かかるというのを聞いてびっくりしたが、浜坂道路ができるのが楽しみです」 <6年 女子>
- ・「どんなことに役立つかわかった。できれば便利になると思う」 <5年 男子>
- ・「むずかしかったけど、早く見学がしたかった」 <5年 女子>



写真-3 トンネルシアターの様子



写真-5 貫通石(久谷第2トンネル)

表-6 出前講座の概要(平成25年度, 計4回)

第1回	9/26(木)	浜坂道路の概要を「知る」
第2回	10/7(月)	工事現場(新桃観トンネル)を「見学」 <全校児童, 保護者>
第3回	10/15(月)	グループ「討議」 テーマ“こうなって欲しい!! わたしたちのまち新温泉町”
第4回	11/10(日)	グループ討議結果「発表」 (オープンスクール)



写真-7 出前講座の様子(第1回)

b) 第2回 新桃観トンネル 工事現場見学

トンネル内及び特殊建設機械（トンネルドリルジャンボ等）の見学
 トンネルシアター（覆工コンクリートをスクリーンとした施工動画の上映）
 “キラキラ”成分がついた石拾い（写真-8）
 キラキラ成分：黄鉄鉱
 防水シートにお絵かき

県民局等行政機関に設置しています。



写真-8 “キラキラ”石拾い

c) 第3, 4回 浜坂道路をきっかけに私たちのまちの将来について考えるグループ討議・発表

～テーマ「こうなって欲しい！わたしたちのまち新温泉町」～

オープンスクールで、父兄など地域の人々が見守る中、グループ毎に共通テーマを決め、一人一人が魅力あるまちへの「提案」、「願い」、「夢」について発表しました（写真-9, 10）。

子供たちの真剣な学びを通じ、家庭や地区に事業の目的や効果を正しく、深く浸透するきっかけになるものと期待しています。

d) 平成26年度以降の対応

以下の感想を受け、今回の取り組みを継続的に実施していくこととなりました。

＜浜坂東小学校＞

今回の取り組みは、普段考えることが無いテーマで大変良かったと考えている。来年度以降も続けたいのではないかな。

＜町教育委員会＞

平成26年度は、山陰近畿自動車道沿線の全ての小学校に声をかける。



写真-9 発表の様子(1)

(4) **正しく深く理解してもらう**

～記者発表・広報紙・パンフレット～

a) 記者発表

新聞による情報は、広い範囲、世代に情報が伝わることから、工事進捗状況や住民参加イベントなどの話題を積極的に記者発表しています（大型工事に着工した平成24年度以降では、10回実施）。

また、“トンネルが香美町・新温泉町境を突破！”など、“効果的なタイミング”で報道機関のみを対象とした現場見学会も開催し、“無料”で広報をしていただいています（写真-11）。これらを通じ、記者とも良好な関係を築けています。

b) 広報誌・パンフレット

広報誌「浜坂道路NEWS」（A4フルカラー1頁、写真-12）の発行を行い、道路計画、工事進捗状況や見学会などのイベント実施結果、工事現場での環境対策や施工業者のイメージアップの取り組み等を紹介しています。これまでに18回発行しており（平成26年3月末現在）、沿道地区に全戸配布している他、町役場、土木事務所、



写真-10 発表の様子(2)



写真-11 日本海新聞の記事（右）

写真-12 浜坂道路 NEWS 第 16 号（左）

また、地元説明会や用地交渉など事業説明を行う際に活用するため、事業用パンフレット「浜坂道路」を作成しました。規模が大きな構造物については、施工業者の負担によりパンフレットを作成し、施工方法や工事の特徴、完成予想図等を住民にわかりやすい内容でとりまとめています（写真-13）。

(5) **全国に向けて発信する**

～ソーシャルメディア（Facebook）の活用～

浜坂道路の事業内容に加え、現場見学会や出前講座等の取組みについて広く全国の皆様に知ってもらうため、Facebookの活用を始めました（写真-14）。Facebookを活用することで、

写真や動画など、多彩な形式での情報発信が可能
 ソーシャルメディアの特徴である友達ネットワークを介して、情報を拡散できる

など、これまでとは違った形で、不特定多数の違った“層”へ情報を伝えることができます。

平成25年11月にページを開設し、平成26年2月には、Facebookの開設が新聞記事にとりあげられ、“いいね！”の数がそれまでのペースに比べ急上昇し、“100いいね！”を達成しました。

7. おわりに

これらの取り組みのお陰か、出前講座を実施した小学校以外からも、工事現場を秋の遠足のコースにしたいとの問い合わせがあるなど、浜坂道路工事が住民にとって身近なものとなっていると感じています。また、Facebookでも、我々が全く知らない第三者から「いいね！」を受けるなど、少しずつですが「浜坂道路“ファン”」が増えてきたように感じています。

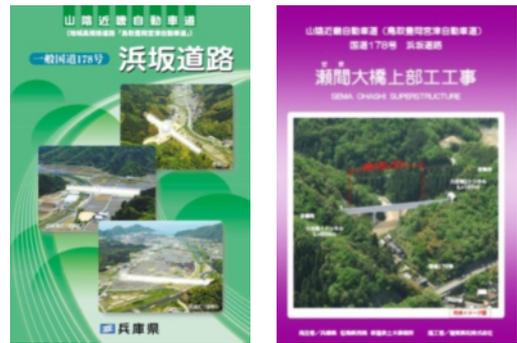


写真-13 パンフレット
 (左：事業用、右：構造物)

5. 広報活動の間接的波及効果

以上の浜坂道路担当者主体による広報活動の影響を受け、浜坂道路の施工業者間でも競い合うように各現場に独自のスローガン横断幕を掲げるなど、現場のイメージアップに積極的に取り組んでいます（写真-15）。

6. 今後の課題と目標

これからの課題としては、神戸・大阪等の大都市圏や全国に向けての発信力の強化です。立ち上げたばかりのFacebookを充実させるなど色々工夫していきたいと考えています。

また、今後は、「見る」見学会、「知る」出前講座に加え、「楽しむ」要素を加え、

- トンネルや橋に愛着をもってもらうため、
- ニックネームをつける
- 現場見学と地域観光資源（ジオパークや蟹など）とのコラボレーション

など、さらなる「浜坂道路“ファン”」の獲得を目指していきます。



写真-14 Facebookのトップ画面



写真-15 スローガン横断幕の例

道路整備においては、通常、工事完成後の開通式典などが唯一の晴れやかな日だと思います。しかし、埃立つ工事現場の見学会等を開催してわかったことは、人々の工事に対する興味は意外と高いということです。手間がかかることも事実ですが、参加者の皆様から、私たちに直接戴く「ありがとう」、「ご苦労様」という普段の言われ慣れていない感謝の言葉は格別で、我々だけでなく施工業者にとっても励みとなっています。

今後も積極的な広報活動を通じて、地域住民とのさらなる円滑なコミュニケーションを確立し、浜坂道路をはじめとする社会基盤整備に対する地域住民の理解と信頼を高めていきたいと考えています。

謝辞：現在、浜坂道路は、平成29年度の供用開始を目指し、鋭意工事を進めているところです。地元住民の方々の多大なご協力のもと円滑な工事実施がなされており、ここに感謝の意を表します。

なお、本稿は筆者が平成23年度から平成25年度に在籍していた兵庫県但馬県民局新温泉土木事務所における掌握事務を課題としたものである。